

2024 年第 1 回 Japan Council 理事会議事録(案)

日 時：2024 年 3 月 22 日（金）13:30～17:00

場 所：東芝会議室 39-8,9 Zoom 併催

出席者：宮永 Chair、原崎 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasurer、小林 札幌支部 Secretary、村岡 仙台支部 Chair、湯川 信越支部 Chair、植村 東京支部理事、Kawamoto 東京支部理事、佐藤 名古屋支部 Chair、梶川 関西支部 Chair、井上 関西支部 Vice Chair、丹治 四国支部 Chair、増田 広島支部 Chair、伊良皆 福岡支部 Secretary、高村 COC Chair、小澤 SAC Chair、浅井 AC Chair、橋本 Past Chair、重松 Past Secretary、前原 Past Treasurer、白川 HC Chair、久本 LRSC 理事、廣岡 MD Coordinator、塩見 YP Coordinator、津田 LM Coordinator、井上 WIE Coordinator、大野 PC Chair、南 ARC Chair、福田 IEEE Past President、鈴木 IEEE Industry Engagement Committee Member、稲森 IEEE Student Activities Committee Member、杉江 IEEE Admission and Advancement (A&A) Committee Member、西原 IEEE Region 10 Past Director、尾上 IEEE Region 10 Vice-Chair of Technical Activities、矢野 2023 R10 HTAC Chair、野添 IEEE JO Director
(現地参加 29 名、オンライン 12 名)

事務局：加藤事務局員、福岡事務局員

幹事会社：金、木村

【議題】

1. 前回理事会議事録の確認（審議）
2. 2024 年 Japan Council 理事会構成（報告）
3. 2023 年決算報告・監査報告
4. 2024 年 活動計画および 2024 年予算（報告）
5. 2024 年中間会計報告
6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 6-1. Chapter Operations Committee
 - 6-2. Student Activities Committee
 - 6-3. Awards Committee
 - 6-4. Industry Promotion Committee
7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 7-1 Long Range Strategy Committee
 - 7-2 History Committee
 - 7-3 Awards and Recognition Committee
 - 7-4 Fellow Elevation Support Committee

- 7-5 Promotion Committee
 - 8. Coordinator 前回理事会以降の活動報告
 - 8-1 Membership Development
 - 8-2 Young Professionals
 - 8-3 Life Members
 - 8-4 Educational Activities
 - 8-5 Women in Engineering
 - 9. 2025-2026 年期 Japan Council 役員選挙候補者推薦のお願い
 - 10. 各支部 2024 年活動計画および前回理事会以降の活動報告
 - 10-1 札幌支部
 - 10-2 仙台支部
 - 10-3 信越支部
 - 10-4 東京支部
 - 10-5 名古屋支部
 - 10-6 関西支部
 - 10-7 四国支部
 - 10-8 広島支部
 - 10-9 福岡支部
 - 11. その他
 - 11-1. IEW の準備状況報告と予算について【審議】
 - 11-2 .SYWL2024 準備状況報告
 - 11-3 . R10 Meeting 参加報告
 - 11-4 . IEEE JC からの感謝状贈呈について
 - 11-5. Japan Office 活動のご紹介
- [参考] IEEE Japan Council メール審議記録
[参考] 支部別会員数/支部別 Society 会員数の推移

宮永 JC Chair より挨拶があった。

【議事】

1. 前回理事会議事録の確認【審議】

報告：奥村 Secretary

前回理事会の議事録確認。

審議→異議なしで承認された。

資料 (1)

2. 2024 年 Japan Council 理事会構成 (報告)

資料 (2)

奥村 Secretary より資料に沿って説明があった。

仙台支部が改選時期となり、変更になっている。HC の Secretary が変更になっている。

3. 2023 年決算報告・監査報告

資料 (3)

樋口 Treasurer より、資料に沿って報告があった。

収入については 2023 年第 3 回の理事会後、見込みが変わりない。予算から少し増えているのは為替の影響。各 OU の効率的な支出により、昨年の見込みから支出が低い結果となっている。収支差は黒字となり、次年度の繰越金は 2022 年からの繰越から増えている。今年度の予算としては結果的には 2023 年から繰越金が増え、余裕がある。予算進捗管理方法の変更について後の中間報告で報告する。本部報告は問題なく終わった。

4. 2024 年 活動計画および 2024 年予算 (報告)

資料 (4)

奥村 Secretary より、資料に沿って報告があった。

本日理事会開催、7 月の第 2 回の理事会は札幌で開催決定。Section Acescent の還元及び有効な活動を支援する。Senior、Fellow Member の増員に注力、WIE の活動支援、常設委員会の活動支援等。本部の R10 との連携強化として 2024 年の Annual MTG が 3/2、3 にクアラルンプールで開催されたが、後ほど報告する。SYWL2024 が東京で開催されるが、それも支援する。

樋口 Treasurer より 2024 年の予算について資料に沿って、説明があった。

収入と支出額は第 3 回理事会で承認され、変更はない。予算は \$ 1=135 円で計算している。支出は各 OU の活動計画で予算も審議したものをベースに作成しており、支出の方が大きい計画になっているが、繰越金があるため繰越金を使用し、2025 年への繰越金は減る。

5. 2024 年中間会計報告

資料 (5)

樋口 Treasurer より、資料に沿って報告があった。

今のところ 100% 執行されている状況。広告はメダル製作費。事務局費は 2 か月分を計上している。そしてこの度、予算管理方法を変更したい。年間支出計画記入フォーマットに No. を入れたものを配布する。年間支出管理フォーマットはイベント実施後、詳細情報を入力、Expense Report と併せて提出。これを事務局が確認し、ファイルは依頼元に返す。これらの資料を使い、各 OU と事務局両輪で予算進捗状況を管理する形としたい。

6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

6-1. Chapter Operations Committee

資料 (6-1)

高村 COC Chair より資料に沿って報告があった。

前回以降の差分、Chapter 内での Award 申請が 15 件、Chapter 支援費申請 7 件。月 1 回のミーティングで審査している。1/15 から JC COC 業務一部を東京支部に移管し、運用開始した。Chapter からの質問を Web 上で、タイムリーに管理できるようになり、間もなく完成。今年度の Chapter 支援費はコロナ前や、コロナ中の時期より増えている。5/22、11/13 に年 2 回 COC ミーティングをハイブリットで開催予定。

6-2. Student Activities Committee

資料 (6-2)

小澤 SAC Chair より資料に沿って報告があった。

千葉商科大学、九州大学に SB が設立され、SB は国内 36 か所になった。年間支出計画に 2 点の変更点があり審議頂きたい。1 つ目は R10 SYWL Congress の Registration Fee の変更によるもので、2 つ目は JC マンガプロジェクトに計画変更に伴うもの。表彰事業では Student Activities Award 2023 と Outstanding Student Branch Counsellor Award 2023 を行い、これらは SBLTW2024 で表彰予定。マンガストーリーコンテストは、現形式のプロジェクトが 2023 年度で一旦活動を休止する。昨年 12 月承認予算案からマンガ制作費用を削除した。一方で JC-SAC 関連イベントや R10-SYWL 内で制作マンガを用いた広報活動を行うための印刷費用を新たに計上している。

質疑応答では、マンガプロジェクトの紙資料の再生紙使用についてコメントがあり小澤 SAC Chair から検討するとの回答があった。また、予算について議論・承認された。

6-3. Awards Committee

資料 (6-3)

浅井 AC Chair より以下の通り報告があった。

日本からの IEEE Level Awards を増やす方針で活動。次の推薦時期は 2024 年 6 月。日本からの候補者の推薦について協力している。資料の対象 1 件とは Maxwell Medal Awards についての推薦の相談をしている。これまで準備をしていた候補者が急逝されたため、次の候補者について検討中。本部委員の情報については、JO の協力を得て情報収集していく。今後は推薦活動を進め、将来に向けた候補者を増やしていく。将来の推薦者の候補者抽出については、支部との相談、Ad-Hoc 委員会の Fellow Elevation Support Committee と連携をとる。例年は秋の全体開催を今年は夏の開催を計画中。

6-4. Industry Promotion Committee

資料 (6-4)

原崎 IPC Chair より資料に沿って報告があった。

MAW2023 が 9 支部回って終了し、MAW の名称を IEW (Industrial Engagement Committee) と変更した。今回の開催については順番で東京支部へ開催検討を依頼するところまでが IPC の役割であった。JO 野添さんから 2024 IEEE President の Tom 氏との連携強化会合に招待された。同氏が SYWL2024 で来日される滞在期間中の企業訪問について、JC の四役、IPC

関係者、関西支部関連は尾上先生とともにサポート、野添さんに資料を提供。また、HTC2025の開催が確定し、スポンサーを各企業に募る話となり、2024年度中に2025年の予算確保できるようIPCメンバーで情報共有した。

質疑応答では、IPCのスコープについてコメントがあり、宮永ChairからJCの四役で議論するとの回答があった。

7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

7-1. Long Range Strategy Committee

資料 (7-1)

原崎LRSC Chairより以下の通り報告があった。

将来の会員数は長期的には減少していくということをChapterにも展開し、若手を増やしたいということを伝えた。MDCには定点観測をし、見える化することを依頼している。2024年も広く活動の見える化をしていきたい。2024~2025年に東京近郊で国際イベントが続くため、イベントのスケジュール管理等、各担当者を決めて活動している。続いて、会員数について紹介する。2023年からStudentが12%増、Graduate Studentが15.8%増、Life Memberも12%、Associateも増加、その他は増えていない。Fellow Member増加に対して活動したが、結果には現れていない。Senior Memberの昇格も活動したが、0.5%しか増えていないなど、施策と成果の因果関係の分析まではできていないが、各部門で活用してほしい。

7-2. History Committee

資料 (7-2)

白川HC Chairより以下のとおり報告があった。

HCの主な活動はMilestoneの認定からその後の授与まで。先日は積層セラミックコンデンサに対してセレモニーを開催した。

質疑応答ではMilestoneに掲載の情報のアップデートに関する質問があり、白川HC Chairから情報について確認するとの回答があった。また、JCの歴史wikiのアップデートについてもコメントがあり、宮永Chairから今後の進め方について検討するとの回答があった。

7-3. Awards and Recognition Committee

資料 (7-3)

南ARC Chairより以下の通り報告があった。

事務局の協力を得て、Webページを立ち上げ、活動内容、報道description、ノミネーション方法、今後の進め方の方法など、掲載した。Japan Council Volunteer Awardの選定は終わっていたが、今回の理事会での表彰となった。受賞者は西宮先生。2024年は昨年同様に活動を行う予定。今年はJC理事の皆さんに少なくとも1件のノミネーションをお願いしたい。

7-4. Fellow Elevation Support Committee

(資料 7-4)

高村 FESC Chair より以下の通り報告があった。

Fellow を目指す人向けの Webinar を 12/5、12/28 に開催した。満足度は高く、今後も継続する。企業界の Fellow 資格が十分な方々の発掘と支援を進行中。1 名が 2 月に Senior 昇格後、Fellow 申請完了。QR コードの発明者である原氏は IEEE の大きな賞を受賞されているが、Fellow は 2025 年 2 月の申請をサポートする。今後の活動として、JO 主催の Leadership と Development Webinar を 4/25 に開催予定。私は Fellow Committee のメンバーであり、引き続き、公開可能情報の提供をする。東工大の仲代先生と共に、52 名メンバーのうち、日本人は 2 人。現在、IEEE Fellow Committee の自薦を受付けている。

7-5. Promotion Sub-Committee

資料 (7-5)

大野 PC Chair より以下の通り報告があった。

昨年から SNS 運用を中心に JC と各支部のプロモーションをしている。Follower 数はあまり増えていない。X が 126、Instagram が 86。学生アシスタントは 2 月から新規。前担当者と相談し、学生からグループでの活動リクエストがあり、農工大 SB と東工大 SB に依頼する。新規メンバーでの打合せの際、学生への IEEE 周知を目的に JO の会議室を借りて会議を行った。JO から野添氏、梶川氏も出席。eNotice の SNS アップには新しいバージョンをダウンロードして使ってほしい。

8. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

8-1. Membership Development

資料 (8-1)

廣岡 MD Coordinator より以下の通り報告があった。

本年度、私自身が仙台支部の Secretary を退任したため、東北工業大学の袁氏が後任。MD で会員獲得施策の一環として、OU アナリティクスのデータをモニターし、内容を MDC 内で共有することを引き継いだ。Senior の会員増加が課題で、MDC での取り組みと実績その差分は取り組んでいく。また、Japan メダルの認知度を高めるために、英訳作業を進めている。Japan メダルの受賞企業のメダルの意義理解が正しくなかったことを受け、Japan メダルの設立や目的などを明文化する必要性が出てきた。

8-2. Young Professionals

(資料 8-2)

塩見 YP Coordinator より以下の通り報告があった。

R10 と連携をはじめた。具体的にはリスボンで開催された Joint Meeting of SAC、WIE、YP に R10 YP rep かつ JC YP 代表として参加。YP と R10 や他の Region にどのように貢献できるか? について、Region 間共通の課題は YP と AG 間で連携であることを認識。一方、JC YP は独自に活性化取り組みを行っており、YP Meet、Study Lab、Career Lab や Slack で連携をとっているが、JC YP AG はかなり成功していることを認識できた。私自身が R10 の委員でもあるため、ノウハウを逆輸入する形で貢献し、JC YP の活性化もやっていきたい。YP

Study Lab を 5/18 か 5/25 に東北大学でハイブリッド開催予定。関西 YP が Overleaf 勉強会、仙台 YP が GitHub を担当。R10 SYWL に YP AG メンバーを派遣。

8-3. Life Members

(資料 8-3)

津田 LM Coordinator より以下の通り報告があった

R10 の LMC の Chair になったのでその報告もする。日本の LMAG MTG を 2/1 に開催。3つの LMAG Section (札幌、仙台、名古屋) の Chair が交代した。ExCom の報告で、MGA より LMAG 関係の Award が出される予定があり、3/1 にノミネーション開始、4/15 締め切り。各 Section に派遣の依頼支援情報が送られているので、対応してほしい。R10 MGA ミーティングに参加。HTC 2024 がクアラルンプールで開催されるが、来年は東京支部なので、東京 LMAG Chair に最初からプログラム委員会に入り、どんな貢献ができるか相談して欲しいと依頼中である。

8-4. Educational Activities

(資料 8-4)

大野 PSC Chair (大越 EA Coordinator 代理) より以下の通り報告があった。

2023 年は各支部の EA と交流。非会員へのアクセスとして IEEE Educational Activities Board (EAB) が主催する IEEE Education Week、Engineer Spotlight を 1 月に第 1 回を開催した。医師の視点から見た、光学連携について議論された。高校生も含め、出席者は 126 名。普段聞けない話で新たな考え方を提供してもらった。EA MTG がこの理事会後に開催される。

8-5. Women in Engineering

(資料 8-5)

井上 WIE Coordinator より以下の通り報告があった。

資料提出後にマンガプロットコンテストの今年開催はしない連絡を受けたため、マンガプロットコンテスト WIE 賞はなくなる。1~3 月は具体的な活動はない。4 月に札幌支部 WIE が IEEE IDEA JAM 開催予定。各 Section で募集したため、全国から参加者が集まる。学生だけでなく教員の参加もある。仙台支部 WIE では電気関係学会東北支部連合大会とスケジュールがバッティングしてしまった。東京・信越、関西も毎年開催のシンポジウムを準備中。前回理事会で WIE 会員増への協力依頼した際、LMAG や学生は登録無料であるが、なぜ少ないのか? の分析をするために、WIE 内で議論した。意識の問題、Life Member 以外は登録料が有料であることがハードルを上げてしまうことが要因などの意見があった。

質疑応答では、WIE の会費を無料にすべく働きかけることについてコメントがあり、井上 WIE Coordinator から皆さんの声を届けるとの回答があった。

9. 2025-2026 年期 Japan Council 役員選挙候補者推薦のお願い

重松 Past Secretary より以下のとおり報告があった。

(資料 9)

今日は候補者の推薦の依頼。来期は Chair、Vice Chair、Secretary、Treasurer の推薦が必要となる。2019 年第 3 回 JC 理事会にて、「Japan Council Nomination Committee 運営の細則について」が承認されており、それに従う。推薦できるのは、JC Voting member、JC Officer、JC 理事会承認理事。候補者の名前、メールアドレス、電話番号を併記し、指定のメールアドレスに送ってほしい。現時点では、候補者への打診は不要。

10. 各支部 2024 年活動計画および前回理事会以降の活動報告

10-1 札幌支部

資料 (10-1)

小林 札幌支部 Secretary から、報告事項の簡略化に伴い、報告事項はなし、昨年の活動報告、来年度活動計画等は補助資料で提出済、との報告があった。

10-2 仙台支部

資料 (10-2)

村岡 仙台支部 Chair より以下の通り報告があった。

仙台支部は偶数年で役員交代があり、今年は Chair、Vice Chair、Secretary、Treasurer が交代した。年次大会(4/8)の際、新 Fellow 講演会を開催し、Fellow に (今年は東北大の田中 陽一郎 氏) 講演してもらい、知ってもらう機会としている。LMAG(3/23)、WIE(4/20)も独自企画を開催している。LMAG は 3/23 に AI 講演会をハイブリッド開催。

10-3 信越支部

資料 (10-3)

湯川 信越支部 Chair より以下の通り報告があった。

12 月以降の活動を一覧表にしている。講演会、WIE、SB など。年明けは活動がない。

2024 年も講演会、講習会を計画している。SB、Senior Member 増員活動を強化。SYWL2024 に WIE 東京・信越 Chair と学生が参加予定。さらに、支部の予算案について旅費を計上しているが、予備費もあるため、さらに 1~2 名の参加者支援をしたい。

10-4 東京支部

資料 (10-4)

奥村 東京支部 Secretary (佐田東京支部 Vice Chair 代理) より以下の通り報告があった。

2024 年の総会、2024 年第 1 回理事会を 3/14 にオンラインのみの開催。新しく Fellow になった方のうち 5 名と、Senior Member の 8 名も参加。Senior Member に今後の Senior 昇格志望者へのサポート依頼をしている。MAW は IEW に名称変更し準備中。東京支部四役会を毎月開催。先月は IEW を中心に議論。COC の運営管理を東京支部に移管。2 月に 2 回、6 件審査を行っている。

10-5 名古屋支部

資料 (10-5)

佐藤 名古屋支部 Chair より以下の通り報告があった。

R10 Robotics Competition への参加の呼びかけがあり、名古屋支部大会を 3/24 開催予定。R10

から求められた WS(小学生対象)も併催。Competition に出てくるロボットを WS 参加親子に採点してもらおう。優秀な 2 チームを選び、賞金授与。選出される 2 チームは R10 の Robot Competition ステージ 2 に推薦。ここまでが我々の役割。もし、ステージ 3 まで行った場合には JC に資金援助願いたい。ロボットの輸送費もあり、莫大になる可能性もある。現在のエントリーは 5 組、15 名の参加者がいる。ロボットによっては輸送費を JC で工面していただきたい。Milestone は本部の長谷先生のおかげで D1~D4 までを 1~2 か月で進められた。

10-6 関西支部

資料 (10-6)

梶川 関西支部 Chair より以下の通り報告があった。

3/8 に IEEE Milestone 記念式典実施。村田製作所からの希望で村田製作所と関西支部関係者のみの式典。総会は 3/26 に開催予定。YP 賞、学生研究奨励賞、Senior 昇格者の関西メダル授与、技術講演会 5 回 (例年とおりに)、JC 支援予定 3 件、YP、WIE 主催のイベント、授与メダル作成費用支援を予定。予算書・決算書に変更点があったため、添付している。

10-7 四国支部

資料 (10-7)

丹治 四国支部 Chair より以下の通り報告があった。

R10 SYWL2024、Senior 会員増員などを目指す。講演、シンポジウムに注力。競争入札がある場合、暴力団排除の契約書が求められた。四国支部でははじめてのケース。競争入札時に必要であることもあるらしい。四国支部でははじめてのケースだが、情報共有する。

10-8 広島支部

資料 (10-8)

増田 広島 Chair により以下の通り報告があった。

年次総会を 1/27 に開催。2023 年の各種報告。2024 年の予算案については資料を参照。表彰としては、2023 年の功労賞。例年の学生シンポジウム開催支援。第 25 回学生シンポジウム支援。HISS 40 名の実行委員が主体で開催。実行委員に対して総会で表彰。Senior Member 4 名昇格。総会に合わせて特別講演会を開催。理事会は年 4 回だったが、第 2 回を 3/30 に予定。

10-9 福岡支部

資料 (10-9)

伊良皆 福岡支部 Chair より以下の通り報告があった。

福岡支部では年末に九州大学 SB が正式に発足。このメンバーは全員留学生なので、日本人のリクルートをアドバイスしている。2/3 に支部総会をはじめて開催。これまでは理事会のみ開催していた。この場で Senior Member の授与式、学生奨励賞の表彰式、LMAG キックオフミーティングを行った。LMAG 設立は昨年からの準備しており、メンバー集めの課題対策として、Life Member を 10 名程招待し、ミーティングを開催した。今年度は総会で Senior Member 授与式を行ったが、Fellow のお披露目の場がこれまではなかったので、今年度中に機会を作りたい。

質疑応答では、九州大学 SB が留学生のみの件についてコメントがあり、伊良皆福岡支部 Chair から日本人学生の活性化について検討するとの回答があった。

1 1 - 1. IEW の準備状況報告と予算について【審議】

奥村 Secretary より、資料に沿って報告があった。

8/31 の 10:00 開催で準備を進めている。ベンチャー企業や、東京の特徴を生かしたアニメなど、日本の多様性を生かしたイノベーションをテーマに講演プログラムを作成中。2024 IEEE President の Tom 氏に基調講演してもらい、橋本先生に東芝と大日本印刷との調整を依頼中。大企業 2 件、ベンチャー企業はマンガ翻訳のスタートアップ企業、水中ドローンの企業の 2 件。3 社目は検討中。ランチとバンケットは SYWL のスケジュールと合わせ、IEW 予算の一部は主に食事代を IEW の参加費として徴収することを検討中。残りは JC 予算から賄う予定。支出は講師謝礼と参加者配布用の T シャツやバッグ。この予算の承認審議をお願いしたい。今月中に広報活動の開始も必要。予算の審議・承認が必要なので、ご意見伺いたい。

本件については議論の上、承認された。

1 1 - 2. SYWL2024 準備状況報告

原崎実行委員長より、資料に沿って報告があった。

2 月に東京観光財団に助成金と最終日の午後のバスツアーについて申請済。参加アンケートは海外の 13 支部、国内の 4 支部（信越、四国、札幌、名古屋）から回答があり、200 人程の参加者の目途がついている。うち、海外からは 100 人。経費の内訳はほとんど飲食代。早期申し込みのインセンティブを決め、4 月末までに全員分のレジスト終了予定。あとの 5 支部（仙台、東京、関西、四国、福岡）でも、SYWL の S は決定しているので、Y (YP) W (WIE) L (LMAG) の人選、費用面などの詳細を検討し、早めに申し込みをしてほしい。280 の部屋を上限で確保しており、オリンピックセンターの部屋の追加はできない。そのため、海外参加者を優先することもある。

1 1 - 3. R10 Meeting 参加報告

奥村 Secretary より資料に沿って報告があった。

3/2、3 にクアラルンプールで開催。参加者の予定は 138 名、日本から 19 名。MGA で学生から若手会員への Retention の低さが課題とされたが、リーダーシップのとれる質の高いボランティアが求められている。MGA で 2 人以上いれば新ローカルグループ設立が可能という、動きやすい組織へのチャレンジがされている。R10 のアップデートとしては、R10 は会員が増加し、二つに分かれる一方で R1、2 が統合される。広島支部、名古屋支部が Retention Award を受賞。YP Outstanding Volunteer Award を塩見 YP Chair が受賞。2024

年の年間計画の中で、原崎 Vice Chair と宮永 Chair より SYWL2024 を東京開催すること、HTC2025 は千葉商科大学で開催されることが紹介された。

1 1 - 4. IEEE JC からの感謝状贈呈について

宮永 Chair より資料に沿って報告があった。

前回の理事会以降、「JC に係る事業以外もあると思うが、それらも含めてよいのか？」との質問があったが、JC の事業以外も含めてよいと考えている。可能であれば、今年後半で授与したく、6/14 までに候補者の推薦をお願いしたい。理事会メンバーは推薦者の対象となる。数は 10 件程度を考えている。可能ならば各 Section、各委員会から 1 名ずつ。候補者が出たあと、四役で検討し、10 月以降に可能であれば手渡しで授与したい。非推薦者はご本人に内諾は不要と考えている。推薦理由は数行程度。推薦理由に関連する参考 URL や関連事業の紹介 PDF など添付してもらえると審査の助けとなる。表彰後は JC の HP に推薦者名、推薦タイトルを掲載予定。

質疑応答では、条件の「複数年」という表現についてコメントがあり、宮永 Chair から検討し全ての委員の Chair に送るとの回答があった。

1 1 - 5. Japan Office 活動のご紹介

野添 IEEE JO Director より資料に沿って報告があった。

3 月に正式に VIC2025 の東京開催が決定した。2025/4/23、24 に都内のホテルで開催予定。目標参加者数は海外 100 名以上、国内 250 名以上、トータルで 600 人目標。主催は US 本部、日本では Operation Committee を作り、参加者確保をメインに、メディア対応を JC をお願いしたい。また、JC 主催の国際会議開催などのサポートとして、MD Desk を設置し、現地での対応、会場やホテル探しに関する情報提供、コンベンションセンターなどの担当者とのマッチングなどの活動を行っている。そして、SYWL の 3 日前に IEEE President が来日することを受け、幹事会社や新興の Technology Company、半導体企業などの訪問アレンジを検討中である。

質疑応答では、VIC2025 のドレスコードについての質問があり、JO 野添 Director から参考資料として、ドレスコードがわかる画像を提供するとの回答があった。

[参考] IEEE Japan Council メール審議記録

[参考] 支部別会員数/支部別 Society 会員数の推移

加藤事務局員より、資料は協賛依頼案件で承認されたメール審議をまとめており、確認・活用して欲しいとの報告があった。

質疑応答では、2023年のデータの一部記載ミスについてコメントがあり、奥村 Secretary から修正するとの回答があった。